

夢の本

マリーナ・アブラモヴィッチ

Dream Book

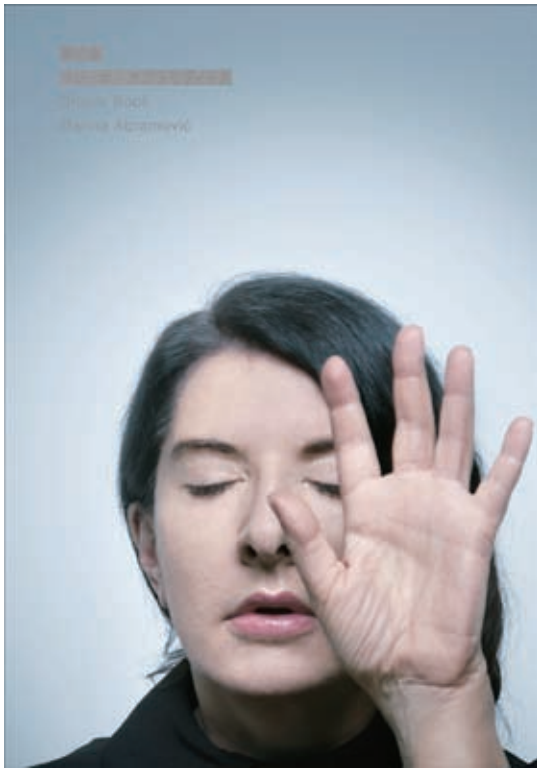
Marina Abramović

夢の中でならば、私たちは、みな、
マリーナ・アブラモヴィッチになれる。

—————茂木健一郎

[寄稿] 石牟礼道子 大宮エリー 北川フラム 谷川俊太郎
中沢新一 茂木健一郎

[アートディレクション] 北川一成 (GRAPH)



「夢の家」で10年以上書き綴られた夢を集めた『夢の本』、
大地の芸術祭2012の作品として、ついに刊行！ 作品 No.Y084

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」から生まれた「夢の家」。新潟県の山奥にある築100年を超える木造民家を活かした「夢」を見るための場所であり、宿泊者はその晩見た夢を「夢の本」に書き綴る。このプロジェクトは、意識と無意識、生と死、現実と虚構の境界にある「夢」をひとつの体験＝パフォーマンスとしてとらえ、すべての人に新たな生の局面を開こうとするものであり、「夢の家」はそこで見られた夢を集めた「夢のアーカイブ」でもある。

「夢の家」は、2000年の開館以来、アーティストの意思を深く受けとめ、集落の人々が大切に守り育ててきたが、昨年3月12日の長野県北部地震により壊滅的な被害を受けた。しかし、大規模な復旧作業によりこの夏の芸術祭で再びオープンすることが決定した。

『夢の本』は、2000年から10年以上にわたって宿泊者が書き綴った1862の夢から選ばれた100の夢と、アブラモヴィッチや関係者の手記・証言、貴重な写真の数々によるプロジェクトの全記録、さらに茂木健一郎の「アブラモヴィッチ論」、各界著名人の「夢」をめぐるエッセイ等を収録し、大地の芸術祭での「夢の家」再開に向けて出版される。

マリーナ・アブラモヴィッチ (Marina Abramović)

マリーナ・アブラモヴィッチは、旧ユーゴスラヴィア出身のアーティスト。肉体の限界と精神の潜在力を探求し、特に、自身の肉体に暴力を加える過激なパフォーマンスで世界的に知られる。1970年代よりパフォーマンスを開始。1976年より公私のパートナーであったウライとパフォーマンス・シリーズ“Relationworks”を行う。1988年、万里の長城の両端からそれぞれ出発した二人が3か月かけて1000キロを歩き続け、再会し、別れるというシリーズ最後の作品「恋人たち——万里の長城を歩く」が大きな話題となる。1997年には旧ユーゴスラヴィアでの紛争に抗議した「バルカン・パロック」でヴェネツィア・ビエンナーレ金獅子賞を受賞。2010年のニューヨーク近代美術館 (MOMA) では大規模な回顧展が開催され、2か月半にわたって観客と見つめ合い続けるパフォーマンスを行う。2011年からは彼女の数奇な半生を描いた劇作品「マリーナ・アブラモヴィッチの生と死」(監督:ロバート・ウィルソン、音楽:アントニー・アンド・ザ・ジョンソンズ)が世界各地で上演され、自ら出演している。2012年、米HBO局のドキュメンタリー「The Artist is Present」がサンダンス映画祭、カナダ映画プレミアで上映される。

ECHIGO-TSUMARI ONLINE SHOP にて好評発売中！

▶▶▶▶ <http://www.tsumari-shop.jp/>

定価 2000 円 + 税

A5 並製・242 頁 ISBN978-4-7738-1214-5 C0037

※全国の書店でもご注文いただけます。

NPO 法人越後妻有里山協働機構 〒942-1526 新潟県十日町市松代 3743-1 まつだい農舞台内

<http://www.echigo-tsumari.jp/>

TEL : 025-595-6688 FAX : 025-595-6181 info@tsumari-artfield.com